

27P-am229

糸状菌の生産する新規抗インフルエンザウイルス物質 wickerol 類の単離、構造、および活性

和泉 直行¹, ○山本 剛², 宇井 英明^{1,3}, 末木 啓人², 増間 碌郎^{1,3}, 野中 健一², 廣瀬 友靖^{1,3}, 砂塚 敏明^{1,3}, 永井 隆之^{1,3}, 山田 陽城^{1,2,3}, 塩見 和朗^{1,3}, 大村 智³
(¹北里大院感染制御, ²北里大基礎研, ³北里大生命研)

【目的】

新型インフルエンザウイルス、薬剤耐性インフルエンザウイルスへの世界的関心は高く、それらに対する新規薬剤の開発は急務である。我々は微生物代謝産物を探索源とし、新しい作用機構、化学構造を持つ抗インフルエンザウイルス物質の探索を行ってきた。

昨年度本年会にて、微生物培養液より新規抗インフルエンザウイルス物質 wickerol A を単離し報告した。本年会では、wickerol 類縁体の単離と構造決定、抗インフルエンザウイルス活性について解析を行った結果を報告する。

【方法】

MDCK 細胞にインフルエンザウイルス (A/PR/8/34) を感染させ、試料を添加し、感染細胞の生死をクリスタルバイオレット法により検定することで *in vitro* 抗インフルエンザウイルス活性を測定した。

【結果および考察】

糸状菌 *Trichoderma atroviride* FKI-3849 株培養液よりシリカゲルカラムクロマトグラフィーにより新たに新規類縁体 wickerol B を単離した。Wickerol B は wickerol A と同様の炭素骨格を有するテルペン化合物であり、その抗インフルエンザウイルス活性および細胞毒性は、wickerol A とは差が見られた。インフルエンザウイルスの亜型に対する効果などとあわせて報告する。